

文学の葉

第23号

Kitakyushu Literature Museum News

2018年3月31日発行

葉室麟さん、石牟礼道子さん、金子兜太さん、
ご冥福をお祈りいたします

館長 今川 英子

昨年一二月二三日、六六歳で亡くなられた葉室麟さんの訃報はあまりにも突然でした。一昨年、当館で開催した「司馬遼太郎展」でのイベントも含めて何度かの対談や、文庫本の解説を書くご縁もいただきました。残された時間は少ないからと毎月のように新刊を刊行、デビュー以来十年余で五十冊以上にもなり、電話でお話ししたときには、「来年は明治維新一五〇年なのでそれに備えたい。現代を考えるためには、明治維新を、日本の近代化を問い直さなければならぬ」と、意欲的に語られていました。

二月一〇日、石牟礼道子さんが逝されました。九〇歳でした。水俣病患者の苦しみや祈りを共感込めて綴られた作品は、日本の高度経済成長の陰で捨て置かれようとした弱者の不条理でもありました。免疫学者・多田富雄さんとの往復書簡をまとめた『言霊』を、新聞の書評欄で取り上げたことがあります。当館でのシンポジウムにも来ていただいた記者の米本浩二さんが著わした『評伝石牟礼道子 渚に立つひと』は、今年度の読売文学賞を受賞しました。

その一〇日後、俳人の金子兜太さんが九八歳で亡くなられました。当館での「横山白虹展」開催の折りにご講演いただきましたが、過酷な戦争体験が作句の原点にありました。一昨年、市川市で開催された宗左近文学碑の除幕式に参加され、友人でもある宗左近の晩年の一行詩について言及されました。代表句に「湾曲し火傷し爆心地のマラソン」などがあります。

三人の文学者は、理不尽なものへの怒りを抑えつつ、なおも怒りを失わずに文学作品に昇華させることの品位をお持ちでした。

明治維新以降、日本の近代化一五〇年の真ん

中に第二次世界大戦があります。前半の西洋列強に追いつけ追い越せと、「殖産興業」「富国強兵」へとひた走る明治政府の欧化主義を、夏目漱石は、うわすべりの外発的開花と批判しました。後半も経済成長とグローバル競争に勝つために相変わらずひた走っていますが、そのひずみに対峙する姿勢を静かに貫いたのが彼らの文学であったと思うのです。そしてそれを読み共感する読者の支えがありました。

一九五〇年代後半から七〇年代にかけて学生生活を送った若者たちの周囲は読書の時間に満ちていて、読書の行為は一人であつても、身近に仲間と語り合い共鳴する欲びが溢れていました。その世代は今でも読書を大事にします。ところが現在、読書時間ゼロの大学生が五〇%以上です。その理由はいろいろあるでしょうけれど、漠然と思うのは、人間の生き方を模索、追究するような文学作品が、急にリアリティを失いつつあるのではないかということ

です。AIやロボットやITなど急激な科学の進歩に、人間本来の悩みや苦しみ、社会のさしみなどすつぱりと呑み込まれてしまつて、現実とバーチャルの境目さえも見えなくなり、沈思や熟考などを伴う批判精神などはどこかに置き去りにされているように思われるのです。読書離れは如何ともしたいのでしょうか。



山本 飛雲 書 葉室麟著『蝸ノ記』より

目次

- 葉室麟さん、石牟礼道子さん、金子兜太さん、ご冥福をお祈りいたします …… 1
- 第25回特別企画展 生誕90年記念 藤沢周平展 …… 2
- 篠田三郎さん朗読会 …… 3
- 朗読会「藤沢周平を読む」(文学館友の会主催事業)
- 第4回林芙美子文学賞 表彰式および記念講演 …… 4
- 第8回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式
- 第9回 子どもノンフィクション文学賞表彰式 …… 5
- 杉田久女・橋本多佳子記念室オープン
- 震災後の文学と復興への道のり-3・11と九州の災害 …… 6
- ヘアーテ・ヴォンデさん講演会
- 第15回 北九州市書道連盟代表作家展
- 山本飛雲書展
- 第40回 光草書道展
- 俳句雑誌「青嶺」200号記念展
- 北九州市立文学館展示リニューアル基本計画を策定 …… 7
- ロビー展、お祝い
- 寄贈資料紹介
- 平成29年度下半期「徳ぶ会」の紹介
- お悔やみ
- 第26回特別企画展開催予告 …… 8
- まど・みちおのうちゅう
- 第27回特別企画展開催予告
- 描かれた西郷どん展～アート、文学、サブカルから～
- 北九州市立文学館文庫 13
- 寄贈者・提供者、提供雑誌

藤沢周平が
もし生きていたならば
いまの私たちに
何を伝えてくれるのか。

北九州市立文学館第25回特別企画展
生誕90年記念

藤沢周平展



2017.10.28[土]—12.10[日]

開館時間/9:30~18:00(入館は17:30まで) 休館日/月曜日
※初日は開会式開催のため、展示室入場は10:30から

観覧料/一般 700円 中高生 200円 小学生 100円

主催/北九州市立文学館 協賛/朝水文庫 遠藤書房 藤沢周平研究会 協力/文藝春秋 新潮社 講談社 中央公論新社 双葉社 KADOKAWA 美空之日本社 福岡市立藤沢周平記念館 山形放送 滋賀県庁 有明堂/時代劇専門チャンネル 制作/ムジカ
編集九州版 協力/小倉知野館 松本文庫 徳島/徳島新聞社 徳島新聞社 徳島新聞社 徳島新聞社 徳島新聞社 徳島新聞社
TNCテレビ西日本 FBS福岡放送 TVQ九州放送

北九州市立文学館

〒803-0813 北九州市小倉北区城戸4-4 TEL 093-571-1505 FAX 093-571-1525
www.kitakyushucity-bungakokan.jp/



昨年秋は、第25回特別企画展として「生誕90年記念 藤沢周平展」を開催しました。昨年は藤沢の生誕90年、没後20年の記念年でした。

展覧会ではまず、「藤沢周平を育てた郷土・鶴岡とその自然」と題し、作家・藤沢周平の内面、根幹を育んだふるさと・山形県鶴岡との関わりと、作家デビューから直木賞受賞へと至る経緯を辿りました。こちらでは愛用の万年筆や、文壇デビュー作「深い海」の原稿（複製）、直木賞受賞作である「暗殺の年輪」原稿（複製）、草稿など、初期作品に関連するものを展示しました。それから、藤沢作品を「武家もの」「市井もの」「歴史伝記のもの」という三つの作品群に分類し、紹介しました。

「武家もの」では、武士を主人公とした藤沢作品を紹介。代表作「蟬しぐれ」の自筆原稿や、創作メモ、「隠し剣鬼ノ爪」、「孤剣」の原稿などを展示しました。また「蟬しぐれ」が新聞連載されていた時の挿絵（山本甚作画）も併せてご覧いただきました。「市井もの」は江戸の街を舞台とした町人たちの物語です。市井ものの代表作『橋ものがたり』や『本所しぐれ町物語』の自筆原稿などに加えて、江戸の街に関する取材資料やメモ等を展示しました。「歴史伝記もの」では小林一茶を書いた「一茶」の他、北九州にゆかりの深い宮本武蔵を主人公にした「二天の窟」、福

岡で没した歌人・長塚節を書いた『白き瓶』の自筆原稿を展示。特に「二天の窟」と『白き瓶』に関しては、九州各地の作品に描かれた場所や、藤沢周平が取材旅行に訪れた場所などを写真で紹介しました。

あわせて、画家の蓬田やすひろさんが手掛けた藤沢作品の装丁画や、墨絵画家の涌井陽一さんが本展のために書き下した墨絵を展示しました。

本展は藤沢作品からの引用文を多く展示し、藤沢周平の「言葉」を重視しました。今を生きる私たちに藤沢周平の言葉が伝えてくれるものを感じ取っていただけたならば幸いです。

展示総数 2200点

展覧会アンケート

・藤沢周平は好きで何冊か読んでいたが、それが彼の作品のごく一部だと気付きました。非常に興味が湧いて来ましたので、また来たいし、作品もさらに読みたいと思います。作品と彼の人生観など、大変分りやすく解説されていると思いました。(60代)
・12年前から読み続けている藤沢周平さんの時代小説。脳を患い、その時出会った藤沢周平さんの原稿を見る事ができ、うれしかった。中でも、初めて読んだ時から何度も読み返している、『蟬しぐれ』の原稿、胸がふるえました。(30代)

篠田三郎さん朗読会

平成29年10月29日

藤沢周平展の開会を記念して、俳優の篠田三郎さんに、藤沢周平「泣かない女」（新潮文庫『驟り雨』所収）を朗読いただきました。



篠田三郎さん

篠田さんは藤沢周平原作ドラマ「立花登青春手控え」に、一九八二年版では平塚源太郎役で出演され、二〇一六年版ではナレーションを務められました。また二〇一六年に放送された藤沢周平を描いたドラマ「ふつうが一番―作家・藤沢周平 父の一言―」にもご出演。また朗読いただいた「泣かない女」と、「雪明り」を収録した朗読CDを新潮社より出しておられ、藤沢作品と深く関わっていらつしやいます。澄んだ声の、情景が浮び上がるような朗読で、藤沢作品をより深く、立体的に感じることができ、感動的な時間となりました。

アンケート

・素晴らしかった。自分で読書した時よりも何倍も内容を深く味わえた。

(50代)

・篠田三郎さんの声が好きです。大好きな藤沢周平さんの小説を大好きな篠田さんの朗読で拝聴できて嬉しかったです。

(60代)

・NHKの立花登を見ていたので、ナレーションの篠田三郎さんに直接お会いでき、物語に引き込まれました。とても感動しました。

(60代)

朗読会「藤沢周平を読む」

(文学館友の会主催事業)

市内で朗読活動をされている方々に、藤沢周平作品を朗読していただきました。会場は文学館交流ステージ。

《11月4日(土)》

①有門正太郎さん(有門正太郎プレゼンツ) 作品:「運の尽き」(新潮文庫『驟り雨』所収)

②上西昭南さん(劇団青春座OB) 作品:「隠し剣鬼ノ爪」(文春文庫『隠し剣孤影抄』所収)



有門正太郎さん



上西昭南さん

《11月23日(木・祝)》

①さかね啓子さん(語りどんどはれ) 作品:「うしろ姿」(新潮文庫『驟り雨』所収)

②葉山太司さん(飛ぶ劇場) 作品:「涙い海」(文春文庫『暗殺の年輪』所収)



さかね啓子さん



葉山太司さん

《12月3日(日)》

①平田伸介さん(劇団青春座) 作品:「驟り雨」(新潮文庫『驟り雨』所収)

②古田美佐代さん(劇団青春座) 作品:「虹の空」(新潮文庫『霜の朝』所収)



平田伸介さん



古田美佐代さん

《12月9日(土)》

・山口恭子さん・野口和夫さん【共読】(演劇作業室 紅生姜) 作品:「朝の蛇」(文春文庫『蟬しぐれ』所収)、「踊る手」(文春文庫『夜消える』所収)



山口恭子さん



野口和夫さん

作品を耳で聞くという経験は、目で活字を追うのとは異なる読書経験です。朗読には語り手の個性や解釈が表れます。八名の方に朗読をいただいたことで、物語のまた違った魅力を感じることができました。

アンケート

・迫力ある朗読に、映画やドラマを観ている様な場面が頭のスクリーンに現れました。

(50代)

・臨場感のある朗読でハラハラしました。楽しめました。ありがとうございました。

(70代)

・目をつぶって聞いていると風景、人物が浮き立って映画を見ようような気がしました。

(80代)

・今までにない朗読です。一人芝居を見ているように、立体的に物語が伝わりました。

(60代)

・すばらしい朗読でした。藤沢周平の世界観がぐんと広がり、その世界に浸ることができました。

(40代)

第4回林芙美子文学賞 表彰式および記念講演

平成30年2月24日

第4回林芙美子文学賞の表彰式が、北九州芸術劇場で開催されました。

全国から寄せられた484編の応募作品の中から、岡山市在住の小暮夕紀子（こぐれ ゆきこ）さんの「タイガ―理髪店心中」が大賞に選ばれ、佳作には東京都稲城市在住の、絹谷朱美（きぬたに あけみ）さんの「光路」が選ばれました。

表彰式には最終選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんも出席されたほか、文学館関係者、地元関係者など多数の方が出席されました。

大賞受賞の小暮さんは「書くことは喜びとともに苦しみもある。これからさらに嬉しいこと苦しいことがあると思うが、生涯書くことをやめることはあり得ないので、しっかりと喜び、しっかりと苦しみながら歩んでいきたい」、佳作受賞の絹谷さんは、「北九州から始まる旅がいくつもの自分を乗り越え、思いもつかない場所へ、見たこともない風景へ導いてくれたと言えるように書き続けたい」と、お二人とも書き続けていく決意を語りました。

大賞作品について、「新人の小説はすぐに、筋（ストーリー）を書こうとする。筋（ストーリー）に都合良く人間が動かされていく。（大賞

作品は）どこにもいない老人とその妻が書かれていて、物語を引っ張っていく。そこが一番評価できた」と選考委員の先生方からご講演いただきました。

表彰式後、共催・朝日新聞社、協力・朝日新聞出版により、選考委員の角田光代さんによる記念講演が行われました。

講演では、「小説を書くこと、古典を訳すこと」と題して、現在、源氏物語の現代語訳に取り組まれているお話を伺うことが出来ました。約三百名の来場者は、角田さんが初めて明かす創作の秘話に聴き入り、たいへん充実した時間を過ごしました。



絹谷朱美さん 小暮夕紀子さん



表彰式講評

左から、今川館長、井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さん

第8回「あなたにいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式

平成29年11月25日

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人 宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもの豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにいたくて生まれてきた詩」コンクールを実施しています。今年度は、市内外から582作品もの応募がありました。表彰式は文学館交流ステージで行われ、最終選考委員の平出隆さんによる講演や、最優秀賞受賞者による詩の朗読が行われました。

また、表彰式終了後に高山保材さん指揮の北九州市小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが

行われ、美しい歌声が文学館に響き渡りました。

受賞者 小学校の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ 中村紗朱（北九州市立湯川）、みずかみかずよ賞Ⅱ 大石寛子（北九州市立戸畑中央）、北九州市市長賞Ⅱ 金子朋奈（北九州市立中井）、北九州市教育

長賞Ⅱ 野田実玖（北九州市立大里柳）、北九州市立文学館長賞Ⅱ 田中志穂（北海道池田町立利別）、佳作Ⅱ 10名

受賞者 中学校の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ 小川璃光（福岡教育大学附属小倉）、みずかみかずよ賞Ⅱ 三浦幹葉（福岡教育大学附属小倉）、北九州市市長賞Ⅱ 久崎彩楓（福岡教育大学附属小倉）、北九

州市教育長賞Ⅱ 田崎百夏（九州国際大学付属）、北九州市立文学館長賞Ⅱ 有久優菜（北九州市立熊西）、佳作Ⅱ 10名、学校賞Ⅱ

北九州市立曾根中学校、福岡教育大学附属小倉

中学校



第9回 子どもノンフィクション文学賞表彰式

平成30年3月17日

今年度の子どもノンフィクション文学賞には、国内外から小中学生合わせて713作品の応募がありました。

表彰式は文学館交流ステージで行われ、受賞者の皆さんには、北橋市長や最終選考委員の那須正幹さん、最相葉月さん、リリー・フランキーさん等から楯と副賞が贈られました。

講評では、選考委員から「興味があることをとことん追求したり、目的に向かって努力する作品が多く見られた」、「経験に左右されない、純粹に書くことが好きな子どもの作品が生まれる雰囲気づくりが課題」といった話がありました。

表彰式後は、ハンドベル演奏者の石井のり子さんによるミニコンサートが開催され、最後は、受賞者の皆さんも参加して、ハンドベル演奏を楽しみました。

受賞者 小学校の部（敬称略）

大賞 前田彩葉（香川県高松市立木太南）、佳作 新池谷悠（群馬県前橋市立桃井）、平家同志（東京都多摩市立北諏訪）、選考委員特別賞 林尚輝（北九州市立永犬丸）、石本光歌子（長崎県佐世保市立清水）、折尾皇明（鹿児島県南九州市立青戸）、学校賞 L C A 国際小学校、南九州市立青戸小学校

受賞者 中学校の部（敬称略）

大賞 梅田明日佳（北九州市立思永）、佳作 田村彰悟（鳥取県鳥取大学附属）、梅野琴葉（福岡県福岡教育大学附属福岡）、選考委員特別賞 阿波さくら（広島県広島市立大塚）、堂本和希（東京都筑波大学附属）、山田柚希（福岡県福岡教育大学附属）、学校賞 北九州市立洞北中学校、熊本大学教育学部附属中学校、信州大学教育学部附属松本中学校、福岡教育大学附属福岡中学校



杉田久女・橋本多佳子 記念室オープン

記念室オープン

平成30年1月16日

北九州市ゆかりの俳句作家である杉田久女（1890～1946）と橋本多佳子（1899～1963）の記念室が北九州市立小倉城庭園内に開設されました。

日本文化を紹介する小倉城庭園は、外国人の来館者も多く、日本独自の短詩文芸である俳句 HAIKU に触れていただくことも期待されます。

1 直筆資料（レプリカ）の展示

文学館の資料をはじめ、かごしま近代文学館、圓通寺、個人の所蔵品など久女と多佳子の美しい直筆の作品を展



杉田久女・橋本多佳子記念室

示しています。

2 橋本多佳子の遺愛品

橋本多佳子が後半生を過ごした奈良で身の回りに置いた調度品や愛用の着物を紹介しています。

3 櫓山荘をしのぶ品々

北九州の文化サロンとしてにぎわい、久女と多佳子の出会いの場にもなった櫓山荘（橋本邸）にかつて置かれていた灯笼、榻（長椅子）、蹲（手水鉢）の3点が小倉城庭園の露台「城見テラス」に移設されました。

開設初日にはオープン記念式典が行われ、橋本多佳子の四女で俳人の橋本美代子さんに櫓山荘の貴重な思い出を語っていただきました。

【問合せ】

093(582)2391(文化企画課)
093(582)2747(小倉城庭園)



櫓山荘をしのぶ灯笼、榻、蹲

震災後の文学と復興への道のり —3・11と九州の災害

平成30年3月1日～31日



全国文学館協議会の共同展示「3・11 文学館からのメッセージ」の一環として開催し、今年で六回目です。

東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、自分自身の問題として再考するきっかけになることを願いました。

震災後に刊行された書籍の中から、文学作品を中心に約200冊を展示し、作家たちが未曾有の大災害をどのような言葉で表現したのか実際に手に取ってお読みいただきました。村田喜代子『焼野まで』、高橋睦郎『句集十年』、まはら三桃『青がやってきた』など、北九州市ゆかりの作家の作品も紹介しました。

また、北九州市危機管理室の協力で、市が行ってきた復興支援の様子を写真パネルで展示。被災直後の釜石市の被害の様子と復旧が進む現在の様子を並

べ、復興の状況をご覧いただきました。また近年九州で発生した大災害——熊本地震（16年4月発生）、九州北部豪雨（17年7月発生）の被害状況や、支援概要なども合わせて展示しました。

アンケート

・震災が作家に与えた影響や、各作家の着眼点の相違などを垣間見ることができた。

（40代）

・北九州市が釜石市等への復興支援を長期にわたって行い、冊子作成など記録としても残していることは大切だと思った。

（70代）



ベアテ・ヴォンデさん講演会

平成29年11月14日

北九州文学サロンのオープンを契機に開催された「小倉ブックフェス（11月5日～11月26日）北

九州市主催」の関連イベントとして、ベルリン森鷗外記念館・キュレーターのパアター・ヴォンデ副館長による講演会が文学館交流ステージで開催されました。

講演では「森鷗外 異文化との出会い」をテーマに、リニューアルしたベルリン森鷗外記念館の紹介やベルリンと森鷗外の関わりなどについてお話いただきました。

第15回 北九州市 書道連盟代表作展

平成29年10月4日～10月9日

北九州地域の文化の興隆発展に寄与することを目的に活動している北九州市書道連盟が、第15回「代表作家展」を開催しました。70名の書道家による、漢詩・和歌・近代詩などを織り交ぜた展覧会でした。日本的な優美さと渾然とした書の世界が表現されていました。

山本飛雲書展

平成29年12月16日～24日

北九州で生まれた、育った、住んだ、住んでいるというゆかりがある作家29名の作品の一節を書で表現しました。

小説、児童文学、詩、俳句など様々なジャンルを取り上げ、個々の作品のイメージに合わせて制作したものです。

作品の中には、中国清王朝時、光緒6年（1880年）に作られた龍紋入り画仙紙やフランス製のデッサン紙、また桜財の板を使用したものもあり、どの作品も道具を吟味して、作家の個性や作品の魅力を引き出した、たいへん見応えがあるものでした。



会期中は、今川館長による講演の他、書のパフォーマンスやギャラリートークも開催されました。

第40回 光草書道展

平成30年1月6日～14日

小倉南区で活動する光草書道会の作品展が開催されました。古典シリーズ最後の今回は、日本文学の源流に位置する「古事記」を取り上げました。



会期中には、阿部誠文さん（元九州女子大学教授）による特別講演も行われました。

俳句雑誌「青嶺」 200号記念展

平成30年3月1日～4月8日

北九州を中心に活動する俳句結社「青嶺俳句会」発行の「青嶺」が、2月に200号発刊となったことを記念し、これまでの歩みと活動を紹介する展覧会を開催しています。



会場では、同人自筆の俳句作品のほか、句集や活動を紹介する写真などを展示しています。師系にあたる兒玉南草、野見山朱鳥の作品も特別に出品されています。地域の文芸活動を知っていただくとともに、俳句に親しむこともできる内容になっています。

北九州市立文学館 展示リニューアル 基本計画を策定

平成29年12月
当館は平成18年11月に開館し、文学資料の収集や保存、研究等をはじめ、特別企画展の開催や文学賞の実施などとおして、文学の普及・啓発に取り組んできました。

しかし、開館から10年以上が経過し、情報メディアの普及による生活環境の変化や活字離れが指摘されるなど、文学を取り巻く環境が変化しています。

また、小中学生などの若年層や小倉城周辺の外国人観光客にも対応していく必要があるなど、文学館の展示方法にも見直しを求められています。

当館では、こうした課題に対応していくため、昨年12月に文学館の展示をリニューアルするための基本計画を策定しました。

この基本計画では、「まちの記憶を刻み、まちの誇りを未来につなぐ文学館」を基本理念に掲げ、「1 みんなの文学館〜みんなで学び、育てる文学館〜」「2 楽しい文学館〜誰もが楽しく集える文学館〜」「3 広がる文学館〜広く羽ばたく文学館〜」の3つを整備方針の柱とし、今後、展示リニューアルを進めていくとしています。

平成30年度は、この基本計画に基づき、展示リニューアルに向けた設計を行う予定です。

ロビー展

◆第13回檜山荘子ども俳句大会

11月17日〜12月28日

大賞の富野小学校6年宮本涼眺さんの作品など46作品を展示しました。

◆第8回北九州芸術祭

ジュニア部門川柳優秀作品展

1月16日〜2月22日

北九州芸術祭ジュニア部門北九州市長賞の今町小学校5年前田啓太さん、福岡教育大学附属小倉中1年古賀瑞希さんの作品など56作品を展示しました。

【お祝い】

・高橋睦郎さん（詩人 現・八幡東区出身）が文化功労者に選出。

・磯崎新さん（建築家 当館設計者）、高樹のぶ子さん（作家）、高橋睦郎さん、村田喜代子さん（作家 現・八幡東区出身）が、日本芸術院会員に選出。

・長野ヒデ子さん（絵本作家）が第55回久留島武彦文化賞を受賞。

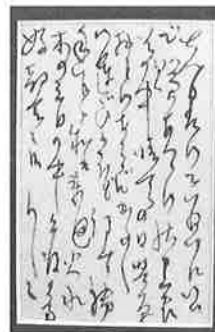
・米本浩二さん（毎日新聞記者）が『評伝 石牟礼道子 渚に立つひと』で、第69回読売文学賞評伝・伝記賞を受賞。

・日野真人さん（作家（指方恭一郎さん） 小倉北区在住）が『アラアネアの罫』（『殺生関白の蜘蛛』と改題し刊行）で第7回アガサクリステイ賞優秀賞を受賞。（受賞時は西恭司名義）

寄贈資料紹介

○杉田久女のはがき

杉田久女が「高柳御奥様」へ送った自筆のはがき（昭和12・1・15消印）です。杉田久女・橋本多佳子記念室のオープンを受け、北九州市へ寄贈されました。



○毛利雨一樓の歌稿

北九州市ゆかりの歌人である毛利雨一樓（1877〜1936）が昭和3年、主基齋田（※）の御田植えを詠んだ歌が揮筆されています。

背振山にある白雲はさやかなる光ふくめり今日の佳き日を

※大嘗祭の献上米を育てる田。昭和天皇即位の際は、西日本（主基）で福岡県が齋田に選ばれた。

平成29年度下半期「偲ぶ会」の紹介

- ・第22回久女忌（1月21日） 小倉北区・圓通寺
- ・第58回葦平忌（1月21日） 高塔山・火野葦平文学碑前
- ・岩下俊作忌（1月30日） 高炉台公園・岩下俊作文学碑前
- ・第41回森鷗外を偲ぶ春の集い（3月26日） 小倉駅前・森鷗外京町旧居記念碑前

【お悔やみ】

・葉室麟さん（作家 現・小倉北区出身）が平成29年12月23日にご逝去されました。歴史文学賞、松本清張賞、直木賞、司馬遼太郎賞受賞。企画展や講演会など当館にもご協力いただきました。

・石牟礼道子さん（作家）が平成30年2月10日にご逝去されました。マガサイサイ賞（フィリピン）、紫式部文学賞、朝日賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。水俣病を描いた代表作『苦海浄土』は、池澤夏樹編『世界文学全集』に収録、高く評価されています。

・福田浩一さん（前山口FG社長、前山口銀行頭取）が平成30年2月18日にご逝去されました。平成21年、当館の「自分史を語ろう」にご出演いただくなど、ご協力いただきました。

・金子兜太さん（俳人 現代俳句協会名誉会長）が平成30年2月20日にご逝去されました。蛇笏賞、日本芸術院賞、チカダ賞（スウェーデン）、菊池寛賞、文化功労者など受賞多数。当館企画展、講演会等、ご協力いただきました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

まど・みちおのうちゅう

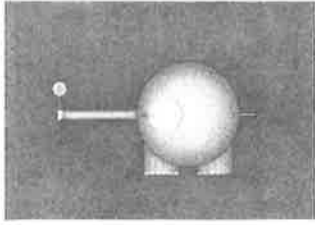
平成30年7月21日(土)～9月17日(月・祝)

主催 北九州市立文学館
監修 (公財) 周南市文化振興財団
企画協力 NHKサービスセンター



まど・みちお (1992年撮影)

山口県徳山町(現・周南市)出身のまど・みちおは、「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「ふしぎなポケット」などの童謡詩をはじめ、生涯にわたって詩を書き続けました。また、日本人初の「国際アンデルセン賞」受賞者でもあり、国内外で高く評価されています。企画展では童謡詩人、詩人、編集者としてのまどの足跡をたどるとともに、50代はじめの時期に描かれた抽象画(主に周南市美術館所蔵)をとおしてその宇宙観を紹介します。



ぞう(さん)
1997(昭和52)年7月
(周南市美術館蔵)

第27回特別企画展 開催予告

描かれた西郷どん展

～アート、文学、サブカルから～

平成30年10月27日(土)～12月16日(日)

主催 北九州市立文学館
企画制作 NHKサービスセンター
かごしま近代文学館



北九州市立文学館文庫13

「森鷗外小倉著作集 我をして九州の富人たらしめば ほか」刊行!

「我をして九州の富人たらしめば」など、鷗外が小倉で書いた文章を手軽な文庫版で読むことができます。

【販売】 文学館インフォメーションブックセンタークレスト小倉本店

093(522)3914



定価 1000円

寄贈者・提供者

青木徹、青野長幸、阿部誠文、有川公一、有馬記念館保存会、有森信二、粟谷さやか、飯田正隆、市川市文学ミュージアム、井上靖記念事業実行委員会、井上靖記念文化財団、入江春行、浦添図書館又吉栄喜文庫、衛藤夏子、遠藤展子、岡清秀、岡田功、奥野明美、小野剛史、かごしま近代文学館、かすがい市民文化財団、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、「京大俳句」を読む会、玖珠町久留島武彦研究所、久富正美、栗売社、黒岩貞治、現代短歌社、現代俳句協会、小池静子、こおりやま文学の森資料館、国民みらい出版、さいたま文学館、堺市博物館、書肆侃侃房、新宿区文化観光産業部文化観光課、数研出版、鈴木比喩子、世田谷美術館、全国文学館協議会、仙台文学館、節のふるさと文化づくり協議会、田尻駿一郎、調布市武者小路実篤記念館、東京都江戸東京博物館、とびうおの会、中里良、中原澄子、中原中也記念館、浪越裕美、西日本新聞社、二松學舎大学附属図書館、日本アコースティックレコーズ、日本機械学会、沼津市芹沢光治良記念館、練馬区立石神井公園ふるさと文化館分室、野田宇太郎文学資料館、橋本美代子、浜木綿俳句会、原賀いずみ、原田暎子、日野真人、姫路文章表現研究会、福岡県人づくり・県民生活部文

化振興課世界遺産登録推進室産業革命遺産係、福岡県立鞍手高等学校、福岡市文学館、福澤徹三、ふくやま文学館、文京区立森鷗外記念館、松川真澄、南川隆雄、宮崎厚、村の会、柳生じゅん子、薬師寺裕二、柳澤伸一、山内克士、山口公和、吉岡紋、吉村昭記念文学館、渡辺善夫

提供雑誌

藍、青嶺、馬酔木、あしへい、花鶏、穴生文芸、ZETTA、あん、いのちの籠、色鳥、沖、海峽派、回遊、北九州文化、九州俳句、九州文学、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、こだま、自鳴鐘、SOLIS、西南の杜、青穂、鯉、船団、川柳くらがね、川柳むらさき、草原、空、太宰府だより、タルタ、小さい旗、天籟通信、投稿俳句界、新懇、虹野、浜木綿、ひびき、ふだんぎ、ふよう、ぱち袋、水城野、民博通信、八雁、遼

2018年3月31日発行 北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区内4-1
TEL 093-571-1505
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

- 開館時間 9:30～18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日) 年末年始